

教育目標	
心身ともに健やかで、たくましく生きる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <p>安定した教育環境の中、自己肯定感が高く、物事に前向きに取り組む子どもが育ってきている。次年度も、引き続き、「心身ともに健やかで、たくましく生きる子ども」を目指したい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学後の子どもの姿から、園では、リーダーシップをとれる子どもの育成に取り組んでいると感じられる。 ・幼稚園が抱えている問題点を地域に発信し、いろいろな意見を参考にしていけば、より良い答えが見つかるだろう。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年11月18日	学校運営協議会サンサンキッズ理事会
最終評価	令和2年2月25日	学校運営協議会サンサンキッズ理事会

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研究を通して、子どもが主体的に遊ぶ姿を捉え、「やってみよう」とする姿から、「もっとやりたい」につながるための環境構成や教師の援助、友達関係による刺激などを探る。 ・園内研究を通して、主体的・対話的で深い学びの姿を見取る。 ・「安心・安定」した園生活を基盤とし、一人一人が自己発揮しながら夢中になって遊びこむための環境構成や学年や個々の発達に応じた教師の援助を考える。 ・幼児一人一人の発達の特性や興味・関心、また幼児期に育てたい資質・能力を意識した教育課程の作成・見直しを図る。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿の変容，研究保育，事例検討，週案の反省・評価の記述 ・アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ② 「幼稚園を好きだと感じている」 ③ 「教職員は話しかけやすい雰囲気である」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会や研究保育、公開保育を通して子どもの実態や育ちを検討し、保育や環境構成の改善・充実が実現した ・週案の反省・評価を次週に活かし切れていない。 <p>① 「とてもそう思う」「おおむねそう思う」 98%（前年結果とほぼ同じ）</p> <p>② 「とてもそう思う」「おおむねそう思う」 98%（前年度より向上）</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研究における実践事例の検討や研究保育・公開保育を通して保育の見直しや環境の改善・充実への教職員全体の意識が高まった。子どもの姿の見とりを深め、保育の課題を明確にすることができた。 ・教師が、一人一人の子どもと信頼関係を築きながら、安心・安定できる学級づくりに取り組み、自己発揮するための基盤づくりを行うことで、安心して幼稚園で過ごし、幼稚園を好きだと感じている子どもも多い。すべての子どもにとって、魅力ある幼稚園を目指していきたい。 ・家庭との連携を密に取りながら、信頼される幼稚園づくりを目指して取り組んでいることで、評価は昨年度より上がっている。幼稚園理解を願うと共に保護者理解を深めている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、幼児理解を深めながら、保育の充実を図り、夢中になって遊び込むための環境構成や援助、子どもの育ちを探っていく。 ・週案の反省・評価を、遊びの充実を図る形式にすることで、遊びが充実するための教師の援助や環境構成を考えた週案となった。 ・互いの週案を見合い、共通理解を深める。 ・教職員が自己を振り返ると共に、現在の園の状況を最大限に活かした体制づくりを引き続き工夫していく。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期との比較・検討を行うことで取組の改善を検証する。 <p>アンケート項目</p> <p>（内容の変更）②「教職員は話しかけやすい雰囲気である」（前期）→「幼稚園は家庭との連携を大切にしている」（後期）</p> <p>（項目の追加）③人とのかかわりについて（発達年齢に応じて）</p> <p>④基本的生活習慣について（発達年齢に応じて）</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時代に合わせた変革だけでなく、一人一人の子どもの主体性を大切にする公立幼稚園の良さを今後も変わらず大事にしてほしい。 ・子どもの個性や育ちに合わせたかかわりを丁寧に行っている良さがある。在園児や卒園児の保護者など園にゆかりのある人以外にその良さがあまり知られていないと思われるので、地域として発信していきたい。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研究における実践事例の検討や研究保育・公開保育を通して、子どもが夢中になって遊び込むための発達に応じた教師の援助や環境構成について、考えを深め、子どもの育ちを探ることができ
--

	<p>た。</p> <p>① 「とてもそう思う」「おおむねそう思う」 100%（前期より向上）</p> <p>② 「とてもそう思う」「おおむねそう思う」 96.8%（前期と記述の仕方を変更，前期より下がる）</p> <p>③ 「とてもそう思う」「おおむねそう思う」 98.4%</p> <p>④ 全体的に前期より評価が若干下がる</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が、一人一人の子どもと信頼関係を築くことで、安心して自己を表現し、幼稚園生活を楽しんでいる。どの子どもも安心して過ごしているという結果となったことは成果である。 ・多数の方が、高評価されているものの、あまりそう思わないという評価もあった。今後も、子どもを中心にしながら保護者の方の思いに寄り添い、子どもの成長を共に喜び合いながら家庭との連携を進めていく。 ・学級の友達だけでなく、幼稚園きょうだいの取組を通して、異年齢児とのかかわりを楽しみ、親しみを感じている子どもが増えていることが、高評価につながっていると考えます。 ・基本的生活習慣の自立については、項目内容を時期や発達年齢に応じたものに変更し、保育環境や手立てを見直してきた。評価については、保護者と担任の捉え方に少し差があると感じる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、一人一人の子どもが安心して自己発揮できる幼稚園づくりを進めていく。 ・引き続き、幼児理解を深めながら、保育の充実を図り、夢中になって遊び込むための環境構成や援助、子どもの育ちを探っていく。 ・教職員は、自己を振り返り、どの保護者とも同じように信頼関係を築いていけるように努める。 ・幼稚園での子どもの姿や教師の願い、かかわりなど、保護者と共有しながら、一人一人の子どもの育ちを引き続き支えていく。保護者への発信・連携をより一層大切にしていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内展では、基本や形にとらわれない自由性のある表現活動を大事にしていることが感じられた。身近な材料を使って工夫することで力がついていく。

（２）幼小連携・接続に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“夢中になって遊び込む”経験を積み重ね、意欲的・主体的に物事にかかわろうとする態度を育む教師の援助や環境構成を考える。また、学びに向かう10の力を意識した保育を推進する。 ・子どもが小学校を身近に感じ、就学の期待感を膨らませることができる交流保育を行い、円滑な接続に向けた連携を図る。 ・「親子で絵本！」のノートを活用しながら、絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わうなど、言葉に対する感覚を養う。
	<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直し ・接続期を意識した5歳児教育課程の検討 ・アンケート項目 <p>「園は、小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」</p>

- ・小学校との交流や施設利用状況。交流保育の事前事後研修の実施
- ・就学前の情報交換・就学支援シートの活用・個別の指導計画の引継
- ・「親子で絵本」の活用状況、便りでの保護者のコメントや子どものつぶやき等の紹介

中間評価

各種指標結果

- ・実践事例や研究保育を通して、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿として捉え、子どもの育ちを具体的な姿で見とることができた。
- ・「とてもそう思う」「おおむねそう思う」98%（前年度より向上）
- ・小学校との年間計画の共有・交流保育の日程調整・共通理解を1学期に実施。幼小交流の日程を昨年度よりも早い時期に調整することができた。
- ・小学校の養護教諭（兼務）による視力・聴力検査の実施。小学校プール・校庭の活用など小学校の環境を生かす機会をもつ。研究保育の公開、互いの人権研修に参加・幼小中合同研修会の実施。
- ・「親子で絵本」を全保護者に配布し、活用することができたが、前期は保護者のコメントや子どものつぶやき等を便りで発信することができなかった。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・子どもの姿を幼児期の終わりまでに育てたい10の姿で捉え、分析することで、育つ力を教員で共有し、明確化することができた。
- ・早期に小学校との打ち合わせが実現したことで、年長児や一年生の様子について共通理解し、より接続を意識した時期に交流できるよう、日程調整することができた。
- ・研究保育の指導案を小学校の届けることで、研究保育を見に来てもらい、幼稚園教育を知ってもらう機会となった。また、互いの人権研修・幼小中合同研修会に参加し、意見交流ができた。
- ・小学校に出かけ、養護教諭による視力・聴力検査を実施したり、小学校プールや校庭を活用したりすることで、小学校や教職員への親しみを感じ、年長児の就学への期待が膨らんだ。
- ・「親子で絵本」のコメントの全保護者への発信や啓発が行えなかったことで、活用状況にばらつきが見られた。
- ・幼小連携や交流について降園時の話やホームページを通して発信することで理解を広げることができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を踏まえ、より接続期を意識した5歳児後期の教育課程を編成していく。週案にも記述していく。
- ・校庭など環境の活用、交流保育を通して、より安心感をもって就学に向かっていけるようにする。
- ・個別の指導計画・就学支援シートの作成し、引き継ぎにいかしていく。
- ・親子で絵本の活用の活性化を図るために、コメントやつぶやきの紹介を行う。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・前期との比較、検討を行うことで取組の改善を検証する。
- ・アンケート項目
（内容の変更）「園は、小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」（前期）→
「園は、小学校・中学校とのつながりを大切にしている」（後期）

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や小学校において、子どもが安心して自分を出すことができる力を育成しているということが、現在中学生になった子どもの姿を通して感じられる。 ・板橋学区では、幼稚園、小学校、中学校が隣り合い、連携している良さがある。校園長が中心となってその良さを地域にアピールしていきたい。
---------	--

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を踏まえ、より接続期を意識した5歳児後期の教育課程の見直しを行い、意識して週案への記述も行った。 ・「とてもそう思う」「おおむねそう思う」98.4%（前期より向上） ・親子で絵本のコメントやつぶやきの紹介を行い、活性化を図ることができた。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践事例や研究保育の中で、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を検討することでより明確にし、教育課程の編成に活かすことができた。 ・学習発表会のリハーサル見学、幼小交流保育、小学校校庭の活用（マラソン大会・風揚げ）、幼小連携を図ることで、保護者の方の小学校への進学に対する安心感につながった。 ・個別の指導計画・就学支援シートを作成し、小学校との引き継ぎに活かすことができた。 ・「親子で絵本」の活用を公表し、100冊達成者数が21名となった。 ・「親子で絵本」の活用が定着化し、親子で絵本に親しむ家庭が多い。しかし、活用状況が家庭によって差が大きい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿の視点から、教師が子どもの姿を捉える力を高めていく。 ・幼小交流の様子を保護者に積極的に伝えていく。 ・個別の指導計画・就学支援シートを引き継ぎに活かし、滑らかな幼小接続を図る。 ・「親子で絵本」のコメントの発信や絵本の紹介をするなどし、引き続き、「親子で絵本」の活用を促したり、絵本に親しむための環境づくりを工夫したりする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼少連携の取組が増えている。今後も、小学校や社会での集団生活につながる保育を実践してほしい。 ・人権研修や研究保育など教員同士の交流ができた。授業がある教員には保育参観が難しいが、幼小の教員が互いに保育や授業を見合い、子どもの姿を通して幼小接続を図れるよう可能な限り進めていきたい。

（3）預かり保育に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間預かり保育利用の子どもの心身の負担に配慮した上で、短時間預かり保育における遊びの多様性を図る。 ・保護者にとっての子育てのパートナーとしての役割の自覚。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数

- ・預かり保育指導計画（にっこり広場）の見直し
- ・アンケート項目
「子どもは預かり保育に喜んで参加している」

中間評価

各種指標結果

- ・預かり保育参加述べ人数 1, 310名（9月までの結果・3歳児は7月からの実施）
- ・預かり保育の年間指導計画を振り返り、年齢に応じた遊びや過ごし方を工夫する。
- ・新しい取組としてテニス教室とLaQ教室を取り入れた。
- ・帰る前のひと時を仲良し遊びや絵本等、自分の好きな時間を楽しめる時間としてきた。
- ・「とてもそう思う」「おおむねそう思う」93.4%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・子どもが安心して過ごせるように、一人一人が好きなことを見つけて遊ぶ姿を大事にするとともに、子どもの体調や通常の保育時間での様子を担任と共有し、保育後の疲れがあることにも配慮してゆったりと遊ぶおもちゃや材料を用意した。
- ・テニス教室では、たくさんの子どもが参加して楽しむ姿が見られた。
- ・帰る前に自分の好きな時間の過ごし方ができることで、その時間を楽しみにする子どももいる。一方で、皆と一緒に仲良し遊びをしたいと思っても素直に入れず、絵本を見て過ごすことを選ぶ子どももいる。
- ・参加人数が多い日には預かり保育ボランティアの協力を得て、安全面にも配慮して過ごすことができた。
- ・保護者の仕事や都合で参加する子どもも多く、保護者の支えになっているという意見があった。一方で「早く家に帰りたい」と思っている子どももいるので、その思いに寄り添いながら一人一人が楽しんだり満足したりできるように工夫していきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・新しいおもちゃや遊びを取り入れて毎日の過ごし方に変化をつけ、預かり保育の時間が子どもにとって新鮮かつより楽しいものとなるよう工夫する。
- ・帰る前には心を落ち着かせ、「今日も楽しかったな」という思いをもてるよう、個々の思いに寄り添いながらかわる。その上で、皆と一緒に楽しめる経験ができるよう誘いかけたり、遊び方を工夫したりしていく。
- ・引き続き担任、保護者と連携をとりながら、一人一人の子どもの思いに寄り添い、子どもが安心して過ごせる場づくりに努める。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・前期との比較、検討を行うことで子どもの姿の変化や取組の改善を検証する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・預かり保育において、外部の力も借りながら充実させることは良い取組であると思う。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加述べ人数 1, 427名（10～2月までの結果） ・前期の子どもの姿や預かり保育の年間指導計画を振り返り、年齢に応じた遊びや過ごし方を工夫した。 ・子どもの姿や発達に応じてボードゲームやアイロンビーズ等、新しい遊びや教材を取り入れた。 ・知育玩具（LaQ）の講師を招き、保護者と園児それぞれを対象とした講習会を実施。 ・「とてもそう思う」「おおむねそう思う」88.7%（前期より下がる）
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人のやりたい遊びの傾向が見えてきた。事前に遊びや教材準備、環境構成を工夫し、参加する子どもの姿に対応することができた。 ・長時間預かり保育利用の子どもについては、生活のリズムが定着し、保護者の就労支援としての役割を果たすことができた。 ・前期は、預かり保育で、異年齢の子どもたちと一緒に楽しむ仲良し遊びに入りたがらなかった子どもも、慣れてくると一緒に楽しむ姿が見られるようになった。 ・知育玩具（LaQ）に興味をもつ子どもが増え、工夫したり、考えたりして楽しむ姿が見られるようになった。 ・遊びの充実によって預かり保育に参加することを楽しみにする姿が見られる一方で、日によって気持ちが変わることもあり、「おうちの人と一緒にいたい」「園庭で遊びたい」等、預かり保育に気持ちが向かない時もあることがわかった。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、通常保育後の子どもの体力や気持ちに配慮し、家庭との連携を図りながら預かり保育としての役割を果たしていく。 ・預かり保育に参加することを楽しみにする子どもが増えるよう、子どもの様子を見ながら、必要に応じて新しい取組や遊びを取り入れる。 ・今後も一人一人の子どもの姿をしっかりと捉え、好きな遊びを見つけて楽しむことができるように工夫していく。 ・担任と預かり保育担当の教員で、子どもの姿を共有し、思いを受け止め、家庭と連携しながら対応していく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の時間に楽しいイベントを計画し、預かり保育の楽しさを宣伝してみてもどうか。

（４）子育ての支援に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談（こっこ組）における、園児とのふれあいの場の設定や在園児保護者と話ができる場の設定。 ・社会福祉協議会『福ちゃん組』における連携、及び地域子育てステーション事業における連携。
--	--

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・子育て支援の取組内容に対する参加人数の傾向の分析
- ・未就園児保護者への聞き取り

中間評価

各種指標結果

- ・内容にかかわらず、全体的な参加人数が減少の傾向にある。
- ・0歳児1歳児の登録は例年通りだが、2歳児の登録が減少している。
- ・未就園児と保護者がともに参加するイベントが近隣に多数あり、重複することが多い。
- ・在園児との触れ合いの場や在園児の保護者と話ができる場があることで、幼稚園の雰囲気や様子がわかりやすいとの声がある。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・近隣の保育園の入園募集が昨年度から増加したこと、小規模保育園が設立されたこと、私立幼稚園のプレ保育への参加が増えたことなどから、どこにも所属していない2歳から3歳の子どもの数が減っており、2歳児の登録数や参加人数が減少している。（児童館、保育園2園でも同じ状況である）
- ・0歳児と1歳児の登録数は例年通りであるが、参加人数は減少傾向にある。
- ・園行事でやきいも、1日動物園を行わなくなったことで、イベントの当日のみの参加者はなくなった。逆に、今年度から始めた写真販売や子ども服（古着）のリサイクルのように、2～3週続けて行う取組については、好評である。
- ・夏休みのプールでの水遊びは、参加者がほとんどいなかった。

分析を踏まえた取組の改善

- ・来年度の前期を見据えた内容の検討
- ・今まで、2歳3歳児を対象とした取組を中心にしてきたが、0歳1歳児（とその保護者）が取り組みやすい内容についても検討していく。また、その際に、実際に来ている未就園児の保護者の意見を参考にしていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・未就園児保護者及び、令和2年度入園予定の子どもの保護者への聞き取り

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・園児数が少なくなっている現実を逆に活かすという方向で考えてはどうか。子どもにしっかりと向き合い、一人一人に合わせたかわりで育ちを支えることができる良さをアピールしたい。
- ・24時間子育てを頑張っている若い母親にとって、子どもと少し離れることはリフレッシュにつながり、我が子と向き合えるきっかけになっているため、プレ保育のニーズが高まっている。その結果、親子で参加する「こっこ組」の利用が減少しているのではないかと。
- ・未就園児が直接触れたりえさやりをしたりできる動物がいることで、「この幼稚園が大好き」という思いにつながり、未就園児親子が継続して園に遊びに来る動機付けになるのではないかと。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・後期前半の参加者数は中間評価時とほぼ同傾向にあったが、後期、特に気温が下がり、市全体でインフルエンザ等の感染症の広がりが見られる頃から、参加者数は激減した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・入園予定者の新規登録があった。 ・未就園児対象のイベントが重複しているため、人形劇や音楽会のようなイベントの方に人が集まる傾向にある。（保護者からの聞き取り） ・私立幼稚園でのプレ保育では、通園バスや給食の利用が可能であったり、保護者の付き添いが不要であったりと、入園と変わらない措置がとられている。また、プレ保育を利用する際、入園についても取り決めがあるらしく、保護者の安心感にもつながり、プレを利用する人が増えているのではないか。（保護者からの聞き取り）
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の保育園の入園募集が昨年度から増加したこと、小規模保育園が設立されたこと、私立幼稚園のプレ保育への参加が増えたことなどから、どこにも所属していない2歳から3歳の子どもの数が減っており、2歳児の登録数や参加人数が減少している。 ・今年度から始めた写真販売や子ども服（古着）のリサイクルのような取組は好評で、それをきっかけに参加する人もいた。 ・在園児との触れ合いの場では、該当学年の兄弟の参加率が高く、結果、他の取組よりも参加数が多くなる傾向にあるが、新規の登録に結び付ける取組としては難しいと思われる。 ・未就園児親子が安心して見たり触れたりしながら親しめる鳥を購入した。継続して園に遊びに来る動機づけの一つにしたい。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度の前期にイベント等の企画を盛り込み、登録者数を増やす。 ・0歳1歳児（とその保護者）が取り組みやすい内容についても検討し、加えていく。 ・近隣の児童館等の取組状況と照らし合わせて、実施曜日を検討する。 ・小規模保育園（あすか保育園）が現在、「幼稚園にたまに遊びに来る」形になっているため、年度当初にこっこ組の年間計画も伝えた上で、更に踏み込んで連携が図れるようにする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化のため、園児数が減少傾向にある。近隣の保育園や幼稚園と連携してほしい。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「板橋祭」や「親と子の秋の集い」への参加。 ・カレーパーティーの買い物体験（年長児）。 ・地域の人材を活用したもちつきの実施。 ・女性会によるお茶会体験や、地域のお年寄りとの触れ合い交流（年長児）。 ・「生き方探究・チャレンジ体験」や幼中交流保育における中学生との交流。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の回数や内容 ・子どもの姿や保護者・地域の方の声 ・アンケート項目 <p>（後期）「子どもは地域行事（板橋祭・親と子の秋のつどい等）に喜んで参加している」</p>

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板橋祭にほぼ全員の親子が参加した。 ・お茶会体験やカレーパーティー買い物の実施（年長児） ・未就園児こっこ組教育相談の時間を利用し、「こっこ組と遊ぼう」（年中・年長組）を行った。 ・運動会アンケートで、「子ども一人一人の個性が出る遊び方のプログラムが良かった」などの意見が寄せられた。 ・「とてもそう思う」「おおむねそう思う」 98.4%
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の協力のもと子どもが園外活動を楽しみ、地域の人に直接かかわり親しみをもつことができた。園内でも子どもが地域の人に触れ合えるような機会を増やしていきたい。 ・年中児と未就園児との交流を行うことで、年下の友達との触れ合いを楽しみ、やさしくかかわろうとする姿が見られた。 ・運動会の案内を学校運営協議会や元PTA役員や地域の方々に配布することで、たくさんの方に運動会を参観していただくことができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更に地域の人や未就園児親子と直接触れ合う機会や活動を充実させていく。 ・保育参観や園行事に学校運営協議会、元PTA役員、地域の方々等を招待し、園の取組や子どもの姿を知っていただく。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期との比較、検討を行うことで取組の改善を検証する。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会では、子どもがのびのびと自己発揮するとともに、保護者も一致団結している様子が感じられた。子どもの保護者も楽しめる運動会であることを、地域に発信したい。 ・年齢や子どもの発達に合わせたプログラムで、一人一人の子どもが生き生きと楽しむ姿が見られた。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と子の秋の集いに98.4%の子どもが参加し、楽しんだ。 ・もちつきや地域のお年寄りとの触れ合い交流（年長児）を実施 ・「生き方探究・チャレンジ体験」の実施で3名の中学生が3日間各クラスに入り交流 ・中学校で年中・年長児が幼中交流保育に参加 ・地域の一員として地域防災訓練に参加。中学生に守られながら避難した。（年長児） ・未就園児こっこ組教育相談で、「こっこ組と遊ぼう」（年長児）を行った。 ・生活発表会アンケートで、「一人一人の表現が大切にされ、子どもがとても楽しんでいることが感じられた」「教師が子どもに温かくかかわって姿がよかった」などの意見が寄せられた。 ・「とてもそう思う」「おおむねそう思う」 98.4%
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と子の秋の集いでは、参加したすべての子どもが親子で楽しみながら、温かい地域の雰囲気を楽しむことができた。 ・地域の人材や保護者の力も借りて実施したもちつきでは、一緒に日本の伝統文化を楽しみ、子

	<p>どもが地域の人を身近に感じる機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生との交流では、一緒に地域防災訓練に参加したり、好きな遊びや触れ合い遊び、絵本の読み聞かせ等を楽しんだりして、中学生に親しみを感じると共に、あこがれの気持ちや大きくなることへの期待感をもつことができた。 ・地域防災訓練に参加することで、地域の人とのつながりや地域の一員として守られていることを子どもが感じる機会につながった。 ・未就園児こっこ組親子との触れ合いを通して、年長児が、年下の友達に楽しんでもほしいと願いながら巧技台で場をつくり、やさしくかわりながら一緒に楽しむ姿が見られた。 ・生活発表会、園内展で、子どもの姿や教師のかかわりの様子を見ていただき、学校運営協議会理事の方々に、子どもの成長や保育の様子や雰囲気を感じてもらおう機会となった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会理事や地域の方々等を園に招待する機会をさらに増やし、園の取組や子どもの姿を知っていただく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の板橋祭は雨のため、20時頃から実施される予定の花火大会を、開始時刻を早めて後日実施したところ、たくさんの親子連れが来場して楽しむ姿があった。小さな子どもにとっては、少しでも早い時間の実施が望ましいのかもしれない。 ・幼小中の3校園が1カ所にある利点を感じる。親子で思い出を振り返り、子どもは自分が大切にされながら成長してきたことを感じられる空間である。 ・預かり保育の子どもが福ちゃん組に参加して一緒に遊んだ際、アイデア豊かな園児の姿に驚かされた。

（６）業務改善・教職員の働き方改革について

重点目標	<p>教職員一人一人が自らの健康を守り気持ち良く働くことが、幼稚園における教育の充実につながるという自覚をもち、自らの働き方についても意識改革を行う。</p>
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・園内行事の見直し ・会議における適切な時間配分と検討事項の精選
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間及び年休取得状況

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中の年休取得状況は職種により差があった。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通常保育の期間での実施が難しい園内環境整備が夏季休業期間に集中し、年休取得が難しかった。 ・時期によって教員の出張が重なり、職員会議や園内研修の時間を取りにくく、行事準備・園務分掌の各業務・教材準備・環境構成等の時間の勤務時間内の確保が難しかった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・慣例に捉われず、行事内容やもち方の見直しを進めることができた。 ・子どもの育ちや課題についてより効果的に伝えるためにクラスだよりの配布日を見直し、精選することができた。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、慣例に捉われずに行事内容やもち方の見直しを図る。 ・検討事項の精選や事前事後伝達、時間を区切る等によって、会議時間の短縮と効率化を図る。 ・園内研修・研究や行事等の年間計画と保育計画を連動させ、担任業務の繁忙期の分散化と効率化を図る。
	<u>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</u> <ul style="list-style-type: none"> ・前期との比較、検討を行うことで取組の改善を検証する。
学校関係者評価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員がノー残業デイ（水曜日）をしっかりと意識して業務を終了させること、そのために各自の担当業務や会議の効率化に努めることが大切である。

最終評価

	<u>中間評価時に設定した各種指標結果</u> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季休業期間の学校閉鎖日推奨日に全教職員が年休を取得することができた。 ・職種によって時間外勤務に大きな差がある。
自己評価	<u>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</u> <ul style="list-style-type: none"> ・検討事項の精選や事前事後伝達、研修時間の設定を行い、職員会や園内研修の会議時間の短縮と効率化を前期よりも勤務時間を意識して進めることができた。 ・持ち帰り仕事や時間外勤務が多くなりがちな業務のうち、他の教職員でもできることを園全体で協力して行い、時間外勤務は減りつつあるが、勤務時間内に業務を終えることは厳しい。 ・長期休暇中も含め、年休取得が難しいのが実情である。 ・全教職員が当事者意識をもって業務改善に努めることが大切である。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体で働き方改革を実現するために検討する機会をつくり、当事者意識をもてるようにする。 ・引き続き、慣例に捉われず、行事内容やもち方の見直しに努める。
学校関係者評価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革に逆行しない取組の工夫が望ましい。